

人生これから

あいち国際女性映画祭で上映「空想の森」

# スローな日常こそ喜び

食品偽装や格差社会などが問題視される中、食べることを大事に、大地に根差したささやかな暮らしの大切さを伝えるドキュメンタリー映画「空想の森」が9月6日、あいち国際女性映画祭で上映される。その地に暮らし登場人物と同じ目線で撮り続けた監督、田代陽子さんに思いを聞いた。

「空想の森」は、北海道のほば真ん中に位置する新得町で農業に携わる二家族の暮らしや仕事を中心に追った。神戸から移り住み、ほとんど手作業のみで完全無農薬の野菜作りに励んで三十年の宮下喜夫、文代さん夫妻と、心身に悩みを抱えたさまざまな人たちが酪農を中心として生活する「新得共働学舎」で働く山田聡美さんと夫の憲一さん。彼らの農業や家での生活、会話をそのままに伝える映像は時間がゆっくりと流れるよう。



監督 田代陽子  
神奈川県出身の田代さんは、東京の大学を中退して北海道帯広市へ移り住む。一九九六年、新得町で始まった「空想の森」映画祭でドキュメンタリー映画と出会い、映画作りにかかわり始めた。知り合った二家族を七年前から、協力を募りながら撮り始め、最終的に二〇〇五年初から翌年二月までの百時間のビデオ

「空想の森」は、北海道のほば真ん中に位置する新得町で農業に携わる二家族の暮らしや仕事を中心に追った。神戸から移り住み、ほとんど手作業のみで完全無農薬の野菜作りに励んで三十年の宮下喜夫、文代さん夫妻と、心身に悩みを抱えたさまざまな人たちが酪農を中心として生活する「新得共働学舎」で働く山田聡美さんと夫の憲一さん。彼らの農業や家での生活、会話をそのままに伝える映像は時間がゆっくりと流れるよう。

## 同じ暮らし、日線で撮る

「空想の森」は、北海道のほば真ん中に位置する新得町で農業に携わる二家族の暮らしや仕事を中心に追った。神戸から移り住み、ほとんど手作業のみで完全無農薬の野菜作りに励んで三十年の宮下喜夫、文代さん夫妻と、心身に悩みを抱えたさまざまな人たちが酪農を中心として生活する「新得共働学舎」で働く山田聡美さんと夫の憲一さん。彼らの農業や家での生活、会話をそのままに伝える映像は時間がゆっくりと流れるよう。

来月3日に開幕  
国内外の女性監督作品15本などを上映するあいち国際女性映画祭2008は、9月3日から7日まで名古屋市中区上野区杉町のウィルアいちで開かれ、おやつで楽しむ「シネマ・ピクニック」は7日後2からで「ピンチクリフ・グランプリ」を上映(特別料金600円)。その他の入場料は前売り800円。映画祭事務局＝電052(962)2520



映画「空想の森」の一場面

### ドキュメンタリー内外の注目作上映

あいち国際女性映画祭では、ほかにも内外のドキュメンタリー作品が上映される。山本睦古監督「小梅姐さん」は民謡「黒田節」などで一世を風靡した歌手、赤坂小梅の生涯を追う。「心理学者原口鶴子の青春」(泉悦子監督)は百年前単身米・コロンビア大に留学し、日本女性初の心理学博士号を取得した一人の学者の短い一生を振り返る。海外の注目作は、中国のフォン・イェン監督「秉愛」。中国の家プロジェクト、三峡ダム建設

で移住を迫られ拒否する女性の七年を追う。山形国際ドキュメンタリー映画祭で二つの賞を受賞した。インドの売春地帯に生まれ育つ子どもたちに密着した米・印作品「ボーン・イントゥ・ブロッセルズ」は二〇〇四年アカデミードキュメンタリー部門最優秀賞受賞作品で日本初公開。映画祭ディレクターの木全純治さんは「自主制作も多いドキュメンタリーにも光を当てるのは映画祭ならでは。ここから全国公開が決まることも。注目して」と話す。